



こーひーぶれいく

「足場」の重要性

三浦 太一
Miura Taichi

細胞内でシグナル伝達が起こる際、足場タンパク質は複数分子を集める土台として重要な役割を果たす。しかし筆者は最近まで、研究人生におけるもう1つの「足」の重要性を理解していなかった。

2025年春、5歳の長男とその友達数人と公園で遊んでいたときのことである。「みんな逃げていいよ。僕が全員捕まえるから」。元バレーボール部主将の自信（慢心）そのままに走り出した瞬間、「ぶちっ」という音が全身に響いた。アキレス腱断裂である。手術とリハビリを経て初めて、研究も日常生活も健康な足があってこそ成り立つことを痛感した。そんな筆者だが、実は昔から足元には人一倍こだわりがある。大学生の頃から続く趣味、それが「スニーカー収集」である。

大学に入るまでファッションにほとんど興味のなかった筆者が、先輩の履いていた Air Jordan 1 に憧れを抱いたのが、スニーカー収集の始まりだった。学生時代はお金がなく、古着屋やネットオークションを巡っては欲しいモデルを探していた。苦労して探し当てたときの喜びは格別であり、その「探す過程」もまたスニーカー収集の醍醐味であった。あくまで個人的な考えだが、スニーカー収集の魅力は大きく3つある。

1つ目は「ストーリー」である。例えば Air Jordan 1 は、NBA の新人だったマイケル・ジョーダンがリーグでの着用禁止カラーを履き続け、NIKE がその罰金を肩代わりしたという有名な逸話を持つ。また、adidas 創業者と PUMA 創業者が実の兄弟であることは有名で、両社の競争は現在も続いている。更に adidas の Stan Smith は世界で最も売れたテニスシューズとしてギネス記録を持



写真 積み上がるスニーカーと箱。もちろん、箱も捨てられない

ち、New Balance は扁平足を治すための矯正靴やインソールの製造から歴史をスタートさせている。一足のスニーカーの背景を知ると、それは単なる靴ではなく文化や歴史の一部に見えてくる。

2つ目は「機能性」である。Reebok のインスタポンプフューリーが象徴する空気圧フィットシステム、近年のマラソン界で注目を集めたカーボンプレート搭載シューズ等、スニーカーの世界では常に技術革新が起こっている。研究者の端くれとしては、こうした技術開発の歴史を追うことも楽しみの1つである。

3つ目は「希少性」である。有名ブランドやアーティストとのコラボモデルは、販売開始直後に完売し、その後はプレミア価格で取引されることも珍しくない。筆者も希少モデルをいくつか所有しているが、幸いにも購入時は定価で入手できた。しかし現在の市場価格を妻に伝えると必ず「今すぐ売りなさい」と言われるため、詳細な価格については最高機密事項となっている。

今回、改めて所有するスニーカーを数えてみた結果 96 足（箱）であった（写真）。妻からは「売るか捨てろ」と言われているが、どれも思い出の詰まった一足であり、なかなか手放すことができない。研究者にとってスニーカーは、研究や出張を支える大切な相棒と言えるだろう。ただし、最も重要なのは「準備運動」と「日頃の運動」、そして何よりも「健康なアキレス腱」であることは間違いない。

((国研)量子科学技術研究開発機構 放射線医学研究所)